

## ベネズエラの最新動向(6月1日～6月30日)

### I. 政治・経済

#### 1. マドゥーロ大統領、ジョルダーニ企画大臣を解任＝為替政策をめぐり与党内派閥の間に亀裂

- マドゥーロ大統領は6月17日、ジョルダーニ企画大臣(企画担当副大統領)<sup>1</sup>を解任し、後任としてメネンデス氏(前高等教育大臣)を指名。ジョルダーニ氏がマドゥーロ政権のリーダーシップや経済政策を強く批判する記事を掲載したことが背景とみられている。ジョルダーニ氏は故チャベス大統領の側近の一人で、チャベス政権下において経済・為替政策を主導してきた主要閣僚であるが、より実利主義的な経済政策を進めるマドゥーロ政権との対立が高まっていた。ジョルダーニ氏は6月10日には中銀理事も解任されており、後任としてトレス財務大臣(実利主義派)が就任。同時にPDVSA理事としてのポジションも解任されている。
- これを受けて、一部の与党内派閥はマドゥーロ政権に対する批判を強めており、与党PSUVの理事会メンバーの一人であるナヴァロ前教育大臣はジョルダーニ氏への支持を示した上で、マドゥーロ大統領の政権運営を強く批判。これに対して、与党PSUVは6月25日にナヴァロ氏のPSUV理事会メンバーの資格を停止することを決定している。7月1日には、チャビスタ(チャベス勢力)の元軍幹部であるCarlos Guyón氏やYoel Acosta Chirinos氏等<sup>2</sup>が、「マドゥーロ大統領の政権運営がベネズエラを社会崩壊へ導いている」と批判した上で、マドゥーロ大統領に対して退陣を要求している。
- チャビスタ内で依然として強い影響力を持つジョルダーニ氏が解任されたことにより、与党内派閥の間には亀裂が生じており、PSUVの党大会<sup>3</sup>を間近に控え、与党内での緊張はより高まっている。
- 他方、ラミレス経済担当副大統領(実利主義派)は、為替政策の改革を進めており、海外投資家に対して、近い将来に3つの並行レート(CENCOEX、SICAD-1、SICAD-2<sup>4</sup>)を統一することを明言し、為替制度を緩和していく姿勢を示している。但し、アナリストは、一部の与党内派閥が為替制度の緩和(通貨切り下げ、外貨取引規制の緩和等)への反発を強めるなか、年内に為替レートの統一が実現することは難しいとの見解を示し、段階的な通貨切り下げが行われる可能性が高いと指摘している。

<sup>1</sup> ジョルダーニ氏は、与党内の急進派閥(反米左翼派)の重鎮で、社会主義経済を推進し、チャベス政権下において経済活動に対する国家管理を強化してきた。

<sup>2</sup> Carlos Guyón氏とYoel Acosta Chirinos氏は、1994年2月4日のチャベス陸軍中佐によるクーデター未遂にも参加した元軍人で、故チャベス大統領が信頼を置いた元軍幹部。

<sup>3</sup> PSUVの党大会は、7月26日～29日に開催される予定で、マドゥーロ大統領がPSUVの党首として引き続き支持されるかに注目が集まっている。

<sup>4</sup> 現在の各為替レートは以下の通り。CENCOEX：6.3ボリバル/ドル、SICAD-1：10.6ボリバル/ドル、SICAD-2：約50ボリバル/ドル。また、政府は、統一為替レートを20～25ボリバル/ドル程度に設定することを検討している模様。

## II. 外交

### 1. ベネズエラと中国、外交関係樹立 40 周年で協力関係の一層の強化を約束

- ベネズエラと中国の外交関係樹立 40 周年を記念する式典が 6 月 25 日にカラカスで行われ、ハウア外務大臣、メネンデス企画大臣、在ベネズエラ中国大使 (ZhaoRongxian 氏) が出席。ハウア大臣は、「1999 年にチャベス大統領が就任してからの 15 年間でベネズエラと中国の外交関係はより一層強化され、今後もボリバル革命と世界平和の構築に向けて協力関係を強化していく」とコメント。また、「過去 15 年間に締結した 480 を超える協定を通じて両国の信頼はより深まっている」と説明した。メネンデス大臣は、「中国はベネズエラにとって非常に重要な戦略的パートナーであり、農業、製造業、エネルギー分野の進展に寄与している」とコメントし、中国との協力関係の強化は優先事項の一つとの認識を示した。
- 中国政府もベネズエラが重要なパートナーとの認識を示した上で、今後もベネズエラとの協力関係の強化を継続していくことを改めて約束した。また、中国政府は、習近平国家主席が 7 月 14 日～23 日の日程でブラジル、アルゼンチン、ベネズエラ、キューバを公式訪問すると発表。習主席はブラジルで開催される BRICS (ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ) 首脳会議 (7 月 14 日～16 日) に出席した後、中南米 4 カ国を公式訪問する見通しで、ベネズエラではマドゥーロ大統領との首脳会談が行われる予定。習主席がラテンアメリカを歴訪するのは就任以来 2 回目<sup>5</sup>、ラテンアメリカでの影響力の拡大を視野に入れた協力関係の強化を進めることが狙いとみられている。

## III. 石油その他の資源セクター

### 1. PDVSA、天然ガスの共同開発でスペイン石油大手 Repsol、イタリア石油大手 ENI と合意

- PDVSA は 6 月 4 日、ベネズエラ北西部 (Falcon 州の沖合) の天然ガス開発事業で、スペイン石油大手 Repsol、イタリア石油大手 ENI と共同開発することで合意したと発表。当該事業への投資額は 70 億ドルに上るとされ、当該 3 社は J/V を設立して、「Cardon IV 鉱区」の「Perla 3X ガス田」での天然ガス (コンデンセートや液体炭化水素) の生産の拡大を目指す見通し。
- Repsol の Brufau 社長は、「Perla 3X ガス田」における将来的な天然ガスの生産目標は 12 億 Ft<sup>3</sup>/日とした上で、目標を達成するために PDVSA、ENI との協力関係を維持していくと明言。ENI の Descalzi 社長も、社長自らが 2 カ月に一度ベネズエラを訪問し、事業のフォローアップを行うと共に PDVSA との協力関係の強化を図ることを約束した。
- ラミレス・エネルギー大臣は、今回の合意を受け、「ベネズエラの天然ガス産業が歴史的な一歩を踏み出した」とコメントし、当該事業の重要性を強調。また、「Falcon 州の沖合 (ベネズエラ湾) には未開発の原油 (約 220 億バレル) が存在する」とコメントした上で、「将来的に深海油田の開発も計画している」と説明した。

以上

<sup>5</sup> 習主席は 2013 年 5 月 31 日～6 月 6 日にも中米・カリブ海諸国 (トリニダード・トバゴ、コスタリカ、メキシコ) を歴訪しており、中南米諸国との積極的な関係強化に取り組んでいる。

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。